悪のね善の根、末と申は悪のをわり善の終ぞかし。善悪の根本枝葉をさとり極めたるを仏とは申なり。〈天台云く、「夫れ一心に十法界を具す」等云云。章安云く、「仏尚此を大事と為す。何ぞ解し易きことを得べけんや」と。妙楽云く、「乃ち是れ終窮究竟の極説なり」等云云。法花経云く、「皆実相と相違背せず」等云云。天台之を承けて云く、「一切世間の治生産業は皆実相と相違背せず」〉等云云。智者とは世間の法より外に仏法を行ず。世間の治世の法を能々心へて候を智者とは申なり。殷の代の濁て民のわづらいしを、大公望出世して殷の紂が頸を切て民のなげきをやめ、二世王が民の口ににがゝりし、張良出て代ををさめ民の口をあまくせし。此等は仏法已前なれども教主釈尊の御使として民をたすけしなり。外経の人々はしらざりしかども、彼等の人々の智慧は内心には仏法の智慧をさしはさみたりしなり。

今の代には正嘉の大地震、文永大せひくの時、智慧かしこき国主あらましかば、日蓮をば用べかりしなり。それこそなからめ、文永九年のどしうち、十一年の蒙古のせめの時は、周の文王の大公望をむかへしがごとく、殷の高丁王の傅悦を七里より請せしがごとくすべかりしぞかし。日月は生盲の者財にあわず、賢人は愚王のにくむとはこれなり。しげきゆへにしるさず。法花経の御心と申はこれてひの事にて候。外のことゝをぼすべからず。大悪は大善の来るべき瑞相なり。一閻浮提うちみだすならば、「閻浮提内広令流布」はよも疑候はじ。此大進阿闍梨を故六郎入道殿の御はかへつかわし候。むかしこの法門を聞て候人々には、関東の内ならば我とゆきて其はかに自我偈よみ候はんと存て候。しかれども、当時のありさまは日蓮かしこへゆくならば、其日に一国にきこへ、又かまくらまでもさわぎ候はん